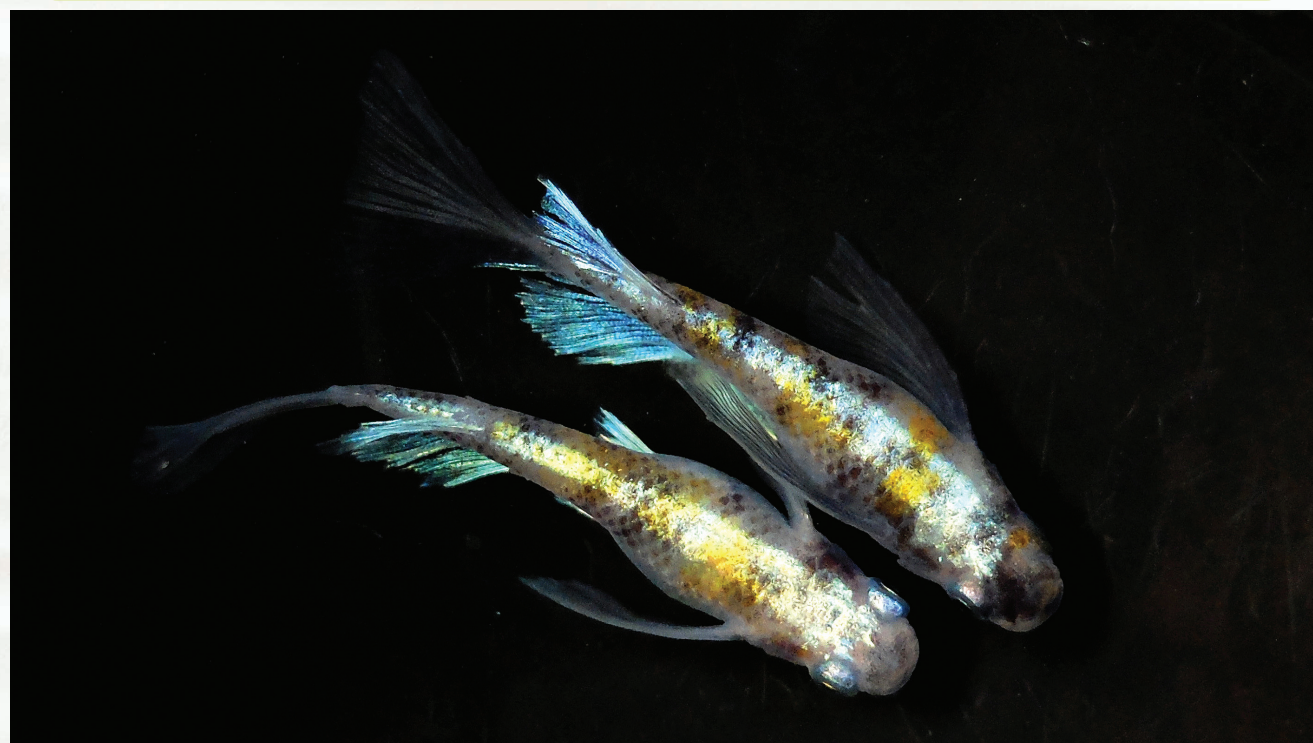




川戸博貴

Collection

Mr. Hirotaka Kawato, First Half of 2023 version



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁リアルロングフィン”



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁リアルロングフィン”



“花魁リアルロングフィン”



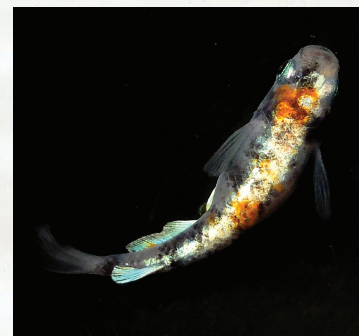
Photo/ Hirotaka Kawato

“紅花魁”



Photo/ Hirotaka Kawato

“リアルロングフィンカブキ”



Photo/ Hirotaka Kawato

“紅花魁”



Photo/ Hirotaka Kawato

“紅花魁”



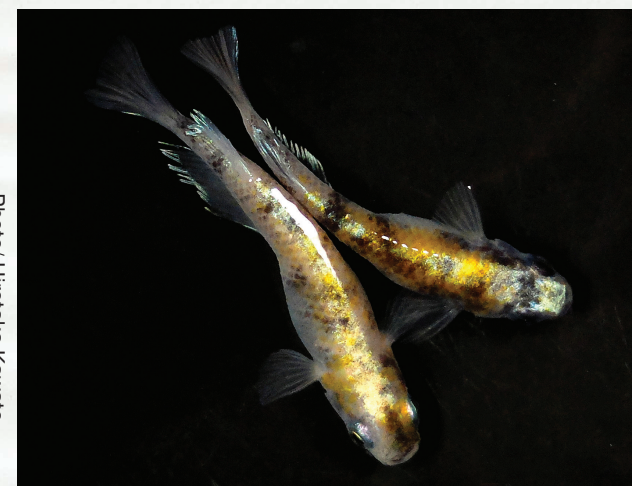
Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁ブルー”



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁 New Type”



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁 New Type”



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁”



Photo/ Hirotaka Kawato

“花魁”

「手作り感のある多色系の体外光」と言えば、三重県鈴鹿市在住の川戸博貴氏のメダカがすぐに浮かんでくる。川戸さんの“花魁”、“紅花魁”、“寿”、“紅花魁 簪(かんざし)”こそ、黄斑や朱赤斑、黒ブチをより引き立てる体外光を持った系統だからである。

『メダカ百華第14号』でも書いたのだが、2021年8月、川戸さんの仕事が多忙で、メダカの世話も朝晩ギリギリでやっておられた二年前の夏、使われている水道水の水質が変化したこと、8月の長雨中に二重だった寒冷紗を一重にされたことと酷暑になった日があり、ハウス内の温度によって自動的に戸を開閉させるセンサーが落雷によって壊れていたことなどで、川戸さんは二年前の夏に、ほぼ全てのメ

ダカを失われていたのである。川戸さんの作られるメダカは、川戸さんの手作り感がある“作品”的な魅力があるので、大切な種親を失ってしまったのは、復元には相当な時間と忍耐を必要とするのは間違いなかった。

それ以前はハウスがいつでも川戸さんのリラックス出来る場所だったのだが「ハウスに入るのが怖くなったこともあった」と言われていた。奥さんからの「好きなら続けなさい！」という言葉や仲の良いヨタロ～さんから「少しずつでもオークションに出さなさい！」という言葉で、昨年9月のこと、少しずつペースを戻された川戸さん、今年の秋は3年振りに川戸さんの飼育場にカメラバッグを担いで行けそうである。